

<特集：調査速報 —2003年のフィールドから—>

## 形成期神殿リモンカルロの建築活動

—2003年度の発掘調査より—

坂井正人  
(山形大学人文学部)

### 1. はじめに

形成期神殿リモンカルロ遺跡は、ペルー北海岸のヘケテペケ川下流域にある(資料1)。この遺跡は南緯7度17分、西経79度26分に位置し、標高は150mである。行政上は、ラ・リベルタ県パカスマヨ郡グアダルーペ地区に属する。

本調査は、リモンカルロ神殿遺跡を発掘することによって、ペルー北海岸の形成期社会を理解しようとするものであり、それによって当時の北部ペルーにおける社会動態の解明に寄与することを目指している。なお本調査は科学研究費補助金「先史アンデス社会における文明形成プロセスの解明」(研究代表 埼玉大学教授 加藤泰建)の一部として実施された。

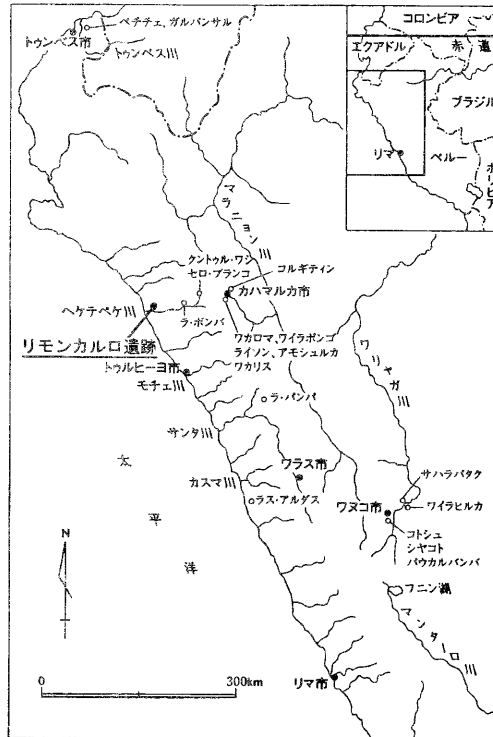
2000年～2002年の3回の調査(Sakai y Martínez 2000, 2001, 2002)で、リモンカルロ神殿の中央には広場(「半地下式広場」、その後「平らな広場」に改修)があり、その周りに3つの基壇(中央基壇、南基壇、北基壇)がU字型に並んでいることが分かった(資料2)。これらの建築物はくりかえし改築されていたので、本年度はこの改築のプロセスを細かく検討することによって、リモンカルロ神殿における建築活動の実態を把握することに努めた。

### 2. 中央基壇と中央広場

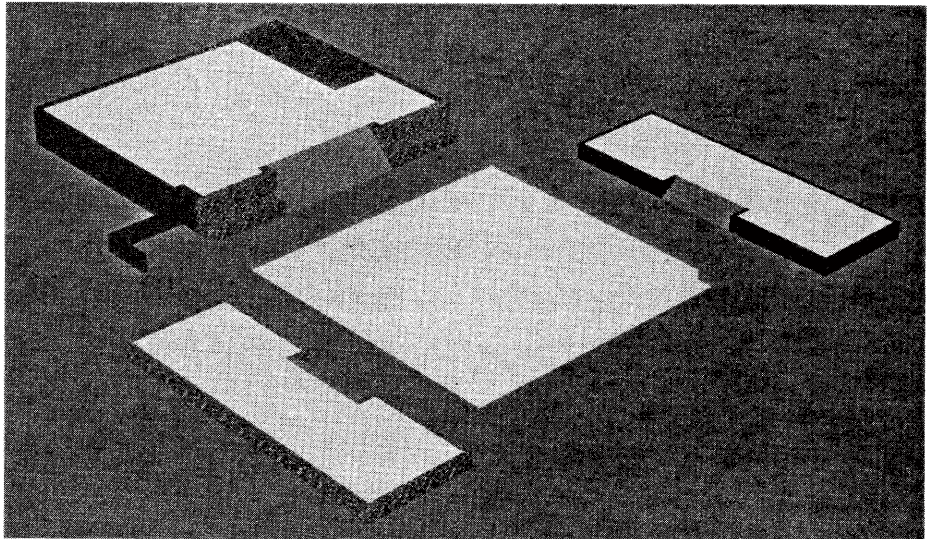
中央基壇は隅丸方形で、規模が36m(南北)×32m(東西)×3.6m(高さ)である。中央広場と接する基壇の東面には、二段の石壁があり、その中央には幅15mの階段がある。一方、基壇の北面と南面の外壁は一段である。

昨年度までは、中央基壇の中部および北部を中心に調査してきたため、南部は小規模な発掘しか行っていない。そこで本年度は南部を集中的に調査することによって、中央基壇の構造を全体的に把握することを目指した。

まず中央基壇の上面における建築活動について述べたいと思う。南部では少なくとも4枚の上床があり、これらの床は、中部および北部から出土した4枚の床と対応することが分かった。南部から出土した床のうち、上から2枚目の床は「方形小構造物」を伴った。ただしこの「方形小構造物」



資料1：ペルー北海岸とリモンカル口遺跡（加藤・関 1998:18 改変）



資料2：リモンカル口遺跡イメージ図

中央基壇（図：左上）、北基壇（図：右上）  
 南基壇（図：左下）、中央広場（図：中央）

は盗掘坑によって、約半分が壊されていた。

この盗掘坑のすぐ脇に別の縦穴が見つかった。この縦穴は、上から3枚目と4枚目の床面を掘り込んでおり、縦穴の上には1枚目の床面が通っていた。縦穴の上部は盗掘坑によって壊されているため、穴の入り口は確定できなかったが、恐らく2枚目の床面から縦穴が掘り込まれたと考えられる。つまりこの縦穴は、現代の盗掘坑ではない。リモンカルロ神殿の更新に伴って掘られた墓穴の可能性が考えられる。縦穴付近から貝製のボタンや管玉が出土したので、この縦穴がもし墓穴であったとしても、盗掘者によって荒らされてしまった可能性が高い。この縦穴の調査は、中央基壇の性格を理解する上で重要と思われるので、今後引き続き調査する必要がある。

中央基壇の上床の張り替えに伴って、外壁も改修された。南外壁の場合、最初は石壁であった。しかしその後、石壁の前面に土砂が積まれ、アドベ製の壁に改修された。石壁と確実に対応するのは、4枚の上床のうち一番古い床面である。しかし残る3枚の床面は外壁付近で破損が著しかったため、石壁とアドベ壁のうち、どちらと対応するのかが確定できなかった。昨年発掘した北外壁の場合、一番古い上床のみが石壁と対応し、残りの3枚の上床はアドベ壁と対応することが分かっている。そこで南外壁でも、3枚の床面がアドベ壁と対応する可能性が高い。

南外壁にあった盗掘者の掘り込み坑を利用して、基壇の内部を調査した。その結果、中央基壇よりも古い床面が確認できた。この床面は地山の直上に建設されていたので、リモンカルロの最初期に作られた可能性が高い。この床面を5m幅で発掘したところ、少なくとも10m以上広がっていることが確認できた。しかしこの範囲には、床面と対応する構造物は見つからなかった。

最初期の床面は、中央基壇の東側でも確認できた。ここから出土した3枚の床のうち、最も古い床が最初期の床面である。この床は中央基壇よりも前に建設された。一方、この上に張られた2枚の床は、どちらも中央基壇と対応する。2枚の床のうち、下床の方は「半地下式広場」と対応し、上床はこの広場を土砂で埋めた上に張られた「平らな広場」と対応する。「半地下式広場」は中央基壇と共に建設され、その後、「平らな広場」に改修された。この改修に伴って床が張り替えられたのである。

「半地下式広場」の規模は、南北が31mで、深さが約0.4mであることが、昨年度までの調査で分かっている。しかし東部が未調査のため、広場の形態についてはよく分かっていなかった。そこで広場東部を発掘したところ、「半地下式広場」に小規模な改修が確認できた。この改修によって「半地下式広場」は最終的に方形になったが、改修以前は東北部に2つの角を持つ歪な方形であったと思われる。

### 3. 南基壇

南基壇は隅角方形で、規模が35m(東西)×12m(南北)×1.8m(高さ)である。中央広場に接する基壇の北面を中心に、これまで調査してきた。その結果、南基壇には4つの建築時期があることが分かった。第1期には北面に2段の石壁が築かれ、第2期には北面中央部に幅9.5mの階段が建築された。階段を中心に左右にそれぞれ3個ずつ、合計6個の「張り出し」が、基壇の北面に設置されたと考えられる。「張り出し」の正面と側面には、動物表象の線画(コンドル、ジャガー、蜘蛛の複合図像)が描かれた。ただし「張り出し」は盗掘者によって荒らされたため、現存するのは

3つだけである。第3期に北面の石壁は2段から1段に改築され、その際に「張り出し」は全て埋められた。第4期に基壇は高くなり、それに伴い中央階段のステップが1つ増えた。また階段の一番下の段に、蜘蛛の鋏角によく似た形のステップが付け加えられた。以上が昨年度までの南基壇の発掘結果である。

南基壇の盗掘坑を清掃したところ、基壇の内部に前の時期の壁と床が確認できた。また基壇の上面からは構造物が出土した。しかし発掘範囲が狭かったため、その全体構造についてはよく分かっていなかった。そこで基壇内部および基壇上面の構造物を把握することにしぼって、本年度の調査を実施した。

その結果、南基壇の内部から見つかった壁は両面壁であり、南基壇以前のものであることが分かった。この両面壁は、南基壇が建てられた際に、基壇北面で再利用された。基壇北面に築かれた2段の石壁のうち、下段がこの両面壁である。ただし両面壁で再利用されたのは、北面だけで、南面は基壇を建設するときに埋められた。両面壁の北にあった床面も埋められ、その上に新しい床が張られた。この新しい床は、南基壇および「半地下式広場」と対応する。その後、この床の上にさらに別の床が張られた。それは「平らな広場」の床面である。

南基壇の上面から、小広場が出土した。この広場は基壇の中央部を占め、その左右には「方形小構造物」と「E型構造物」の複合構造物がそれぞれ分布していた。これらの構造物は、南基壇の第4期に建築されたものである。

#### 4. 北基壇

北基壇は隅角方形で、規模が約35m(東西)×10m(南北)×1m(高さ)である。広場に面している基壇の南面には、幅9.5mの中央階段があり、この階段は「半地下式広場」および「平らな広場」と対応する。

これまで基壇の南面を中心に調査してきたが、建築の重なりは確認できなかった。そこで建築の重なりの有無を調査するために、基壇の上面部を発掘した。その結果、基壇に3枚の上床を確認することができた。上から1枚目と2枚目の床面は、破損が著しかった。付近に水が流れた跡が見られるので、エル・ニーニョなどの豪雨によって破損した可能性が高い。それにくらべて3枚目の床面は保存状態がよい。中央階段および「方形小構造物」が、この床面と対応することも分かった。この「方形小構造物」は、中央基壇と南基壇から出土したものとよく似ている。

3枚目の床の下には地山が続く。そこで北基壇は、同じ時期に建設された中央基壇や南基壇とは異なり、前の時期の構造物の上に建設されたのではないことが分かった。

#### 5. 東基壇

東基壇は、U字型基壇群(中央基壇、南基壇、北基壇)から東に約60m離れた所にある、独立した基壇である。この基壇が、U字型基壇群と同じ時期に建設されたのかどうかを検討するために発掘した。その結果、東基壇の上面および周辺から床面が出土し、これらの床面の下には地山が続くことが確認できた。つまり東基壇は地山の上に建設され、その後改築はなかったことが明らかにな

った。しかしU字型基壇群との編年上の関係を跡づける遺構はつかめていない。今後、この基壇から出土した遺物を分析することで、U字型基壇群との関係を検討する必要がある。

## 6. おわりに

本年度の調査によって、リモンカルロにおける建築活動は大きく2つの時期（前期と後期）に分けられることが確定した。後期にU字型基壇群と中央広場が建設され、この時期に3～4回の改築があったことも確認できた。一方、前期の構造物が、中央基壇と南基壇の内部に存在することを突き止めたが、その建築プランや改築の有無については、発掘調査が不足しているためよく分かっていない。

これまでリモンカルロ神殿から出土した土器は、新旧2つのタイプに分けることができた。前者は、クピスニケ様式の動物表象が見られるリモンカルロ・タイプである。一方、後者は、リモンカルロ・タイプとの類似点がありながらも、動物表象が見られないラ・カレーラ・タイプである。

リモンカルロ後期の建築物から、リモンカルロ・タイプの土器が多数出土しているので、両者は同時期と考えられる。それに比べて、リモンカルロ前期の建築物とラ・カレーラ・タイプの土器の対応関係ははっきりしていない。この点を明らかにするためにも、これまで出土した遺物を詳細に分析する必要がある。

## 参考文献

Sakai, M., y J. Martínez.

- 2000 *El Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2000*, presentado al Instituto Nacional de Cultura, Lima.
- 2001 *El Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2001*, presentado al Instituto Nacional de Cultura, Lima.
- 2002 *El Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2002*, presentado al Instituto Nacional de Cultura, Lima.
- 2003 *El Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2003*, presentado al Instituto Nacional de Cultura, Lima.

原稿受領日 2004年02月03日

